

6 (自由提案部門)

事業名	出雲そばを活かした地域の活性化事業
実施主体	NPO法人 まつえ・まちづくり塾
県担当課	観光振興課

事業の成果

事業の目的 [地域づくり]

- 一昔前の観光といえば、団体客を大型観光バスに乗せて観光施設を巡るというスタイルがメジャーだったが、旅行者のニーズの多様化によって、「個人が自らテーマをもって自由に旅行する」というスタイルに変化している。
- 島根県東部には「出雲そば」を提供する店が多く、食べ物としての魅力だけでなく、背景となる文化や地域性などの魅力を引き出していくことで、この地に根ざした素材を活かし、訪れる人に島根の新しい魅力を発見してもらう。
- また、活動を通じて生産・流通・そば店・客・観光それぞれの主体が横につながることで、一層「出雲そば」の魅力を高めることができる。

事業の内容

- 「出雲ソバで地域おこしを考える会」を設けており、香川県での讃岐うどんブームの背景などについて講演会(9月14日)を開催し、出雲ソバを活かした地域おこしについて参加者と意見交換を行った。
- 出雲そばが好きな人を募集した調査イベント「そば屋喰い歩き」の開催(10月18日、11月19日)などにより、ソバ店の取材活動を行った。
- 取材協力が得られた64店のガイドと、読み物をまとめた冊子「出雲そば通」を作成した。



目的の達成状況 [概ね達成できた]

- 「出雲そば通」の冊子はできたが、完成時期が遅く、年度内に十分な販売PRまでできなかった。
- 活動を通じて「出雲そば」が話題にのぼる機会が増えたことは成果の一つだったと思う。

反省点・改善点

- スケジュール管理をしっかりと、冊子完成の時期をもう少し早めれば良かった。

協働の効果

県との協働内容 [協働して実施した]

- 単なる冊子作成事業に終わらせないため、その活用までを通じた一連の流れの中で県と協働することとした。
- 冊子作成自体は当NPOが主体的に行い、協議の中で、関係団体の紹介などのアドバイスを受けた。

県との協働効果 [十分効果があった]

- 「県との協働事業」ということで、そばの専門家ではない当NPOが、そば店や観光関係者などに取材する際、信用が増した。
- この協働事業が知事に関心をもってもらうきっかけとなり、インタビューが実現し、冊子にもその内容を掲載することができた。

県への要望事項

- 自分達もNPOの活動以外の仕事を持っているので、本業が忙しい時期には活動が停滞してしまったりする。定期的な協議の場を設けてもらうと、進行管理もきちんとできたとと思う。

反省点・改善点

- スケジュール面など計画をもう少し緻密にする必要があった。

市町村との協働 [協働して実施した]

- 出雲そばで地域おこしを考える会に参画してもらった旧横田町の担当者から、そばの情報提供を受けるなどの協力を受けた。玄丹そばについては、松江市から情報を得た。

事業の継続

事業成果の活用 [活用されている]

- 冊子「出雲そば通」を継続して販売(300円)している。
- 「出雲そば通」をガイドブックとして、出雲そばの食べ歩きをしている人がいる。

事業の継続状況 [助成を受けずに継続実施している]

- 「出雲そば」をテーマに活動を継続している。
- なお、「出雲そばりえ」(ワインのソムリエ資格のような認定制度)を新たに設けたので、その立ち上がりについて、この協働事業の助成を受けている。

協働による発展 [協働により発展できる]

- 「観光」というノウハウを当NPOでは持っていないので、ぜひそのノウハウを活用させていただきたい。
- 讃岐うどんも口コミで広まっていたので、様々な面で取り上げてもらうと、「出雲そば」を食べるために島根に来るといって観光が実現できると思う。

